千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラム

私たちの柏の歴史

― 牧から街へ ―

History of Kashiwa

全体の目次

前書き　p. 1
序　章　現代－柏の葉地区の歩み－　p. 2
第１章　原始古代　p. 12
　Ⅰ　柏の遺跡　p. 13
第２章　中世　p. 33
　Ⅰ　古代から戦国時代の柏市域　p. 35
　Ⅱ　柏市の製鉄遺跡　p. 50
第３章　近世　p. 57
　Ⅰ　江戸時代の柏と小金牧　p. 59
　Ⅱ　柏の水運－手賀沼と利根川の開拓と物流－　p. 74
第４章　近代　p. 85
　Ⅰ　小金牧の開墾－十余二地区を中心として－　p. 86
第５章　柏市の農業　p. 93
　Ⅰ　昭和から平成までの変遷　p. 94
　Ⅱ　柏市の農業　トピックス　p. 105
第６章　（小金牧）十余二開墾物語　p. 116
　Ⅰ　小金牧の開墾－入植時の苦労話－　p. 117
　Ⅱ　十余二の土壌と栽培作物に関する話　p. 118
　Ⅲ　サツマイモ・農業に関する話　p. 119
　Ⅳ　柏飛行場の開設に関する話　p. 120
　Ⅴ　戦後の農地改革・金属工業団地に関する話　p. 120
柏市とその周辺の歴史年表　p. 122
制作メンバー一覧　p. 126

はじめに

この書籍の制作は、2017 年の千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラム A コース『柏の歴史、文化、産業』の開講がきっかけになっています。柏市に長年居住している人でも、柏地域の歴史や文化、そして経済についてよく知っているわけではありません。そこで、柏市のことを勉強するというプログラムが企画されました。

このプログラムを通して柏市の歴史に興味を持った市民が集まり、大学と一緒になって、地域の歴史について勉強したり、調べたりして、この書籍を完成させました。2018 年 1 月 20 日に第 1 回のミーティングが開催され、2020 年 2 月 22 日まで 20 回以上のミーティングを重ねて作りあげました。

地球上のどこの地域にも、地域ごとに先人たちの歴史があります。その歴史が幾重にも積み重なり、私たちが生活している現代に繋がっています。この書籍は千葉大学柏の葉キャンパスが位置する十余二地域を中心にして、まとめてあります。この書籍を手に取った方がこの地域の歴史を知ることで、この地域への愛着を少しでも持っていただけたら幸いです。

なお、2017 年の千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラムは柏市教育委員会文化課と経済産業部に協力していただきました。そして、この書籍の作成には、プロジェクトの立ち上げ当初から柏市教育委員会文化課に多大なるご協力いただきました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

2020 年 9 月 1 日

千葉大学環境健康フィールド科学センター
野田勝二

第 6 章　（小金牧）十余二開墾物語

目次

Ⅰ　小金牧の開墾－入植時の苦労話－　p. 117
1.　苦しかった生活面　p. 117
2.　開墾農地のこと　p. 117
3.　十余二の開墾－トピックス－　p. 118

Ⅱ　十余二の土壌と栽培作物に関する話　p. 118

Ⅲ　サツマイモ・農業に関する話　p. 119
1.　柏の名産品－サツマイモ‘十余二赤’　p. 119
2.　サツマイモ‘十余二紅’の選抜と
　　県からの品種適応性試験について　p. 119

Ⅳ　柏飛行場の開設に関する話　p. 120

Ⅴ　戦後の農地改革・金属工業団地に関する話　p. 120

Ⅰ　小金牧の開墾－入植時の苦労話－

明治新政府が明治 2（1869）年に始めたのが、窮民対策を目的とした下総牧開墾事業でした。

下総開墾地は、入植が始まった順に 13 の村名がつけられ、小金牧（高田台牧）の十余二は 12 番目の入植地でした。関東ローム層で水利が悪く、地味も悪くて耕作地に適さない土地であったうえに、天災等も重なり開墾は非常に困難なものだったようです。

本書を編集する中で、「小金牧の開墾に携わった方々のご子孫の方にお話を伺いたい」という声が多数上がりました。そこで、2018 年 10 月 13 日に千葉大学環境健康フィールド科学センターにて、十余二入植者の子孫にあたる方々 4 名にお集まりいただき入植当時からの十余二の様子を聞かせていただきました。そのお話から、厳しい開墾生活と逞しく生き抜いたお姿を垣間見ることができました。

お話のエピソードをまとめてみました。

ここでは、「入植時の苦労話」について伺ったことを簡単にまとめています。「当時の栽培作物」について伺った内容は、第 5 章Ⅱ2『柏市の農業－特産農産物紹介－』で触れています。ご覧ください。

1.　苦しかった生活面

入植当時の生活は非常に厳しいものでした。例えば、主食は麦ご飯であり、家はあばら家で、屋根は杉の皮で葺いたものであったため、屋根の隙間から星空が見えたことが記憶に残っているそうです。また、現在よりも気温が低く、冬の朝は布団に霜が付くほど寒かったようです。江戸から入植してきた武士たちの家は、全部で 27 戸しかなかったのですが、開墾作業の大変さや生活面の厳しさに耐え切れず、すぐに江戸に帰ってしまったそうです。

2.　開墾農地のこと

開墾をしていくことで広い土地が手に入る予定でしたが、開墾した土地が手に入らず、開墾会社と農民は裁判で争いました。足尾銅山鉱毒事件を明治天皇に直訴したとして有名な田中正造（1841～1913）が、この問題について国会で質問

し、その後も支援をしてくださったが、解決に至らなかったとのことでした。また、窒素を含む化学肥料が生み出されたのは大正 2（1913）年であり、入植当時は良い肥料もなかったため、作物が良く育たなかったそうです。

3.　十余二の開墾ートピックスー

“入植時の苦労話”

・入植者は江戸からだけでなく、農家の次・三男が自分の土地を持ちたい（自作農）と希望して入植した者も多かった。

・入植当初、家はあばら家で、屋根は杉皮で葺いていた。屋根には隙間が多く、夜には天井から星空が見え、朝起きると布団に霜が降っているような家だった。

・入植時の生活は、非常に厳しかった。

・主食は‘おかぼ（陸稲）’に麦（丸麦）入れたご飯だった。

・農具は入植時に実家から持ってきたトンビ鍬を使っていたようだ。

・農具の補修のため鍛冶屋もあったようだ。他に「かごや」などの屋号の家もあった。今でも当時の仕事がうかがえる鍛冶屋、豆腐屋などの屋号が残っている。

Ⅱ　十余二の土壌と栽培作物に関する話

・入植時、水利が悪く水田が作れないので、まず‘おかぼ（陸稲）’を作り、ほかに少量であるが、落花生、蚕、お茶、サトイモ、サトウキビなどを作ったと聞いている。稗は作らなかったようだ。いろいろな作物を試したようだ。

・土地は赤土で痩せており、サラサラしていて石は無かった。

・肥料が無いので、作物がよく育たなかった。

・十余二は根菜類しか生産できなかった。（豊四季は同じ関東ローム層でも、土は黒く、地力は十余二よりもあったようだ。そのため、作物も違っており、豊四季は葉物が生産できた。）

Ⅲ　サツマイモ・農業に関する話

1.　柏の名産品－サツマイモ‘十余二赤’

・十余二における戦前からの主力農産物はサツマイモで、サツマイモが有名になり麦や陸稲より多くの収入となった。陸稲や麦からサツマイモへの転作も増えた。

・Ｂ家は 4 町歩ぐらいサツマイモを作っていた。

・サツマイモは、苗床づくりが重要で、飯岡町で穴沢式甘藷苗床の作り方を習ってきて栽培した。

・サツマイモの栽培は、幅 2 尺 1 寸の東西につくった畝の南側に麦を播き、麦の北側にサツマイモの苗を植えた。(収穫期がずれているため、両方栽培できた)

・種芋の消毒にドラム缶にイモを入れ、F90 度（約 40 ℃）のお湯を入れて殺菌した。

・種芋の保存が大変だった。室（むろ）に保存した。室は 3 m ほどの縦穴を掘り、そこから横へ何本か横穴を掘り、床に落ち葉などの枯葉を敷き、イモを保存した。有毒ガスが発生する（酸素不足か？）ので、穴に入るときは必ずローソクを点けて入った。室の中は夏涼しく、冬は暖かかった。

・肥料は落ち葉などを利用した。(実際は落葉のたい肥と単肥:試験設計書より)

・出荷は東京行からトラックが荷を積みに来ていた。

・「マンジョウみりん（キッコーマン)」の原料となる焼酎用にイモを作っていたこともある。

・戦争中、戦後の食糧不足の時、都内から多くの人が買い出しに来て、おいしくない種芋まで買っていった。

・戦後は梨（豊水）やスイカも作った。

2.　サツマイモ‘十余二紅’の選抜と県からの品種適応性試験について

・最初、サツマイモは農林 1 号を植えた。

・Ｂ家の初代入植者から数えて 3 代目（リーダー格）は、千葉県農事試験場の指定を受け品種比較試験をしていた。(昭和 16（1941）年～26（1951）年（資料から判明))

・Ｂ家の初代入植者から数えて 3 代目は、サツマイモの改良に熱心で、イモの芽

の色や感触で良いものを選び出し、何年もかけて改良した。
・品種改良は試験場でするからやるなと叱られたこともあったという。
・Ｂ家の初代入植者から数えて 3 代目たちは、十余二赤という品種（系統・名称・ブランド名と思われる）のサツマイモを選抜。
・十余二赤は薄皮で、傷つきやすいため、かごに入れず、藁莚(わらむしろ)で作った叺(かます)に入れていた。
・吉田邸の口利きで皇族の北白川宮家に献上した。献上芋は絹で洗い汚れを取った。
・‘十余二赤’は、その後、知らないうちに‘千葉紅’（昭和 16 年度には千葉紅となっている）と名前を変えられた。
・千葉紅は、農林大臣賞を貰った。

Ⅳ　柏飛行場の開設に関する話
・飛行場の建設は上意下達だった。
・滑走路の建設には、13 歳以上の男女を問わず勤労奉仕で携わった。小学 6 年生も動員された。
・昭和 12（1937）年に工事が始まり 13 年に完成。軍用道路は舗装されていた。赤土だったので、建設中は赤い土が舞い上がり、息もできないくらいだった。
・飛行場を作るために、入植者は強制的に立ち退かされた。(家引きもあった。)
・転居先の住居は保証してくれたが、耕作地の準備はしてくれなかった。
・耕作地がなくなった者には、Ｂ さんなどが、耕作権（小作権）を譲った。
・現在の梅林の辺りには、百人部隊（教育隊）と言われる部隊があり、飛行場から飛行機を兵隊が押して移動させていた。

Ⅴ　戦後の農地改革・金属工業団地に関する話
・十余二の地主は大隈家だったが、その後鍋島家に譲渡された。管理人（宮下さんと言った）が常駐していた。
・農地改革（解放）のとき（昭和 21（1946）年）鍋島家から農地を買い取った。現金払いで 1 反あたり 480 円を届けに行った。(1 反 480 円は、そのころの付近の土地が 1 反 1 万円であったので、非常に安い価格ではあった。)

・高田のあたりは、戦後の入植である。
・お話を伺った方々の中で、現在農業をしているのはＡ さんだけ。
・十余二の工業団地は、国道 16 号が開通した時、市が住み分けによる土地の利用を決定し、工業団地を誘致した。
〇13 か所の下総開墾地（小金 5 牧、佐倉 7 牧）
①初富　②二和　③三咲　④豊四季　⑤五香　⑥六実　⑦七栄　⑧八街　⑨九美上　⑩十倉　⑪十余一　⑫十余二　⑬十余三
注：開墾地名は、東京府開墾局北島秀朝が名付けたとされますが、十余二は「十二分の発展を未来にかける」意味から名付けられたといわれています。

【お話を伺った方々】　　※年齢は 2018 年 10 月 13 日現在

・　Ａ さん（91 歳）
　ご先祖のご出身：埼玉県一宮市
　ご先祖の入植の経緯：埼玉県で水害にあったため
・　Ｂ さん（86 歳）　（初代入植者から数えて 5 代目）
　ご出身：千葉県野田市関宿（旧二川村）
　ご先祖の入植の経緯：二川村は土地が狭く、自らの土地を持ちたかったため
・　Ｃ さん（76 歳）　（Ｂ さんの従姉妹）
　現在柏市唯一のキウイ生産者
・　Ｄ さん（74 歳）
　ご先祖のご出身：千葉県流山市
　本家筋は郵便局長をしていた家で、開墾地で小学校も作ったとのこと

柏市とその周辺の歴史年表

※本年表は「郷土かしわ」の歴史年表をベースとし、末尾欄外に示す引用・参考文献より重要と思われる「できごと」を補足した。

時代区分		西暦	年号	主なできごと
原始	旧石器時代	約4万年前 約3万年前		***・日本列島に最古の明確な石器が出現*** ・常磐自動車道柏地区に旧石器時代の遺跡が現れる （聖人塚，中山新田，元割遺跡など） ・環状ブロックの形成　（中山新田Ⅰ遺跡） ・長期間の人々の営み　（聖人塚遺跡） ・本の木型石槍の生産　（元割遺跡）
	縄文時代	約1万5千年前	草創期 早期 前期 中期 後期 晩期	***・土器の使用が始まる*** ***・狩猟や採集の生活が続く*** ・本格的なムラがつくられ始まる（鴻ノ巣，花前遺跡） ・前期前葉の黒浜式期の集落が出現（若葉台遺跡，花前Ⅰ遺跡） ・貝塚を中心に大集落ができる（布施貝塚，林台遺跡） ・中期前葉の阿玉台式期の集落が展開（聖人塚遺跡,中山新田Ⅰ・Ⅱ遺跡，水砂遺跡） ・中期中葉～後葉の環状集落（小山台遺跡） ・中島遺跡，岩井貝塚 ・宮根遺跡
古代	弥生時代	前10世紀後半～前8・7世紀 紀元後 239		***・大陸から北九州に稲作が伝わる*** ***・大陸から青銅器，鉄器が伝わる*** (今のところ柏市内では弥生時代 早・前・中期を示す明確なものは発見されていない) ***・邪馬台国の女王卑弥呼が倭国王になる*** ・笹原，中馬場遺跡（弥生後期）
	古墳時代	538 593 607 645 646 701	大化元 大化2 大宝元	***・前方後円墳がつくられる（大王が支配する大和政権）*** ・戸張一番割，戸張城山，石揚遺跡（古墳前期） ・北ノ作1号・2号墳 ・弁天古墳（古墳・中期） ・花野井大塚古墳 ・小規模な集落が出現　（花前Ⅱ-1遺跡，矢船遺跡） ・集落規模の拡大（上貝塚遺跡） ***・百済から仏教伝わる*** ***・聖徳太子が推古天皇の摂政になる*** ・柏・我孫子あたりは朝廷の御名代（みなしろ）として直接支配される ***・小野妹子を遣隋使として隋に送る*** ・市内各所に小円墳がたくさんつくられる ・総の国を二分して南部を上総，北部を下総とした ***・大化改新の詔が発布される*** ***・大宝律令ができる*** ・下総国府（市川市国府台）置かれる ・根戸周辺に大集落ができるようになる（中馬場遺跡）
	飛鳥時代			
	奈良時代	710 721 741 771	和銅3 養老5 天平13 宝亀2	***・平城京（奈良）に遷都*** ・この頃鉄器生産を伴う集落の出現（花前Ⅰ遺跡，花前Ⅱ－2遺跡） ・養老5年「下総国倉麻（そうま）郡意布郷（おふのさと）」戸籍つくられる（ほとんどの人が「藤原部」姓をもつ） ***・国分寺建立の詔*** ・下総国分寺建立 ・武蔵国-下総国-常陸国（東海道）の交通が多くなり，駅馬が増強される
	平安時代	794 823 935 1126 1130 1156 1167	延暦13 弘仁14 承平5 大治元 大治5 保元元 仁安2	***・平安京（京都）に遷都*** ・この頃本格的な製鉄の展開（花前Ⅱ－2遺跡） ・空海，布施弁財天に紅竜山東海寺を建立（東海寺縁起による） ***・平将門反乱をおこす*** ・相馬御厨成立 ・平常重，布施郷（相馬御厨）を伊勢皇太神宮領に寄進（志子多谷，手下水海の名みえる） ・保元の乱に，千葉介常胤（相馬郡司），源義朝に従って参加 ***・平清盛が太政大臣となる***

時代区分			西暦	年号	主なできごと
古代	平安時代		1180	治承4	・源頼朝伊豆に挙兵 千葉一族協力する
					・千葉介常胤本領安堵（相馬御厨の下司職）を得る
			1185	文治元	・守護，地頭の設置 ・千葉介常胤「下総一国守護職」に補任
中世	鎌倉時代		1192	建久3	・源頼朝征夷大将軍に任ぜられ，鎌倉に幕府を開く
			1204	元久2	・相馬次郎師常（常胤の次男）没
			1227	嘉禄3	・相馬五郎能胤が娘土用（むすめとよ）に相馬御厨内の手加，布瀬，藤心，野木崎らをゆずる
	南北朝時代		1334	建武元	・建武の新政
	室町時代		1338	延元3	・足利尊氏，征夷大将軍となり幕府を開く
			1462	寛正3	・高城胤忠，根木内城構築
		戦国時代	1467～77	応仁元	・応仁の乱
			1478	文明10	・太田道灌，国府台に陣し，千葉孝胤と境根原で戦う
			1537	天文6	・高城胤吉，小金大谷口城構築
			1538	天文7	・北条軍と小弓軍国府台に戦う 北条軍勝利
			1564	永禄7	・国府台後の戦，里見氏，北条軍に敗れる
近世	安土桃山		1573	天正元	・室町幕府滅ぶ
			1590	天正18	・豊臣秀吉の統一 ・高城氏滅ぶ
			1600	慶長5	・関ケ原の戦い
	江戸時代		1603	慶長8	・徳川家康将軍となり江戸に幕府を開く
			1614	慶長19	・江戸幕府，小金三牧と佐倉七牧を管理する
			1616	元和2	・幕府七里ケ渡を定船場とする ・本多正重が相馬郡内に1万石を領す
			1641	寛永18	・江戸川開通
			1641～43	寛永18～20	・寛永の大飢饉
			1654	承応3	・伊奈備前守忠次，利根川東遷に成功
			1663	寛文3	・大青田村と船戸村の草場をめぐる争いで双方の名主入牢
			1671	寛文11	・江戸商人（海野屋作兵衛ら17名）による手賀沼干拓始まる
			1702	元禄15	・大室村と高野村草場をめぐる争いで3人死に，双方の名主入牢
			1708	宝永5	・戸張村と大井村草場をめぐる争い
			1724	享保9	・利根川沿いに流作場生まれる ・布施河岸が正式に成立
			1725	享保10	・小金原で将軍吉宗鹿狩，村々より勢子，人足差し出す ・このころより代官，小宮山杢之進，牧付新田を開発させはじめる
			1726	享保11	・小金原で将軍吉宗鹿狩
			1727	享保12	・幕府年貢増収をねらって手賀沼干拓を始める
			1729	享保14	・手賀沼開墾により千間堤完成(5年後決壊) ・手賀沼干拓竣工
			1732	享保17	・享保の大飢饉
			1737	元文2	・藤ヶ谷に鮮魚街道石橋が作られる
			1738	元文3	・千間堤洪水により決壊
			1745	延享2	・手賀沼再工事竣工 ・利根川洪水のため千間堤再決壊
			1748	寛延元	・水戸公，小金原で鹿狩，帰途，弁天で参詣
			1783～87	天明3～7	・関東一帯大飢饉(天明の大飢饉)
			1787	天明7	・寛政の改革始まる
			1790	寛政2	・船戸・小青田等16ヵ村・水戸公の鷹場の免除を願い出る
			1795	寛政7	・小金原で将軍家斉鹿狩
			1849	嘉永2	・小金原で将軍家慶鹿狩
			1853	嘉永6	・黒船渡来で世間騒がしくなり水戸街道の往来がはげしくなる（助郷増加） ・非常時（黒船渡来） のため，村々から船戸，藤心詰足軽勤番差し出す ・品川沖へ御台場建築のため根戸村御林から木材を江戸へ送る
			1855	安政2	・下総布川の儒医，赤松宗旦「利根川図誌」を著す
			1867	慶応3	・大政奉還

時代区分		西暦	年号	主なできごと
近代	明治	1868	明治元	・旧領主本多紀伊守，駿河から安房国長尾藩（現南房総市白浜）へ移封
		1869	明治2	・葛飾県の支配となる
				・小金，佐倉牧開墾会社設立，小金・佐倉牧廃止
		1871	明治4	***・廃藩置県***
				・葛飾県を廃止，印旛県となる
		1873	明治6	・下総開墾会社を解散
				・豊四季村，十余二村誕生
		1873	明治6	・千葉県となる
		1879	明治12	・第1回県会議員選挙，成島巍一郎（布施），木村作左衛門（名戸ケ谷）当選する
				・藤ヶ谷に鮮魚街道常夜灯造立
		1888	明治21	・利根運河の工事始まる
		1889	明治22	***・大日本帝国憲法発布***
				・市町村制施行
				・富勢村・土村・田中村・千代田村・手賀村・風早村誕生
		1890	明治23	・利根運河完成
		1894	明治27	***・日清戦争始まる***
		1896	明治29	・常磐線（当時日本鉄道株式会社土浦線），田端～土浦間開通，柏駅開設
		1897	明治30	・成田線開通　（成田－佐倉間開業）
		1901	明治34	・成田鉄道（現成田線）我孫子－安食間開通（成田直通は翌年）
		1904	明治37	***・日露戦争始まる***
		1911	明治44	・県営軽便鉄道　柏～野田間開通(現東武アーバンパークライン)
	大正	1914	大正3	***・第1次世界大戦始まる***
		1920	大正9	・陸前浜街道は国道六号となる
				・第１回国勢調査実施　柏市域人口24,908人
		1923	大正12	***・関東大震災***
				・北総鉄道株式会社，柏～船橋間開通（現東武アーバンパークライン）
				・東葛飾中学校（現東葛飾高校）開校
				・詩人「八木重吉」が東葛飾中学校に赴任
				・柏郵便局に電報，電話事務取扱
		1926	大正15	・千代田村，柏町と改称（9月15日）
	昭和	1928	昭和3	・豊四季に柏競馬場できる
		1938	昭和13	・十余二に陸軍柏飛行場建設始まる
		1939	昭和14	***・第2次世界大戦始まる***
		1941	昭和16	***・太平洋戦争始まる***
		1943	昭和18	・この頃柏町に軍需工場ができる
		1945	昭和20	***・広島，長崎に原爆投下，日本無条件降伏***
現代		1947	昭和22	・利根遊水地の築提始まる
		1949	昭和24	・常磐線松戸～取手間電化
		1952	昭和27	・国道６号整備着工（50年完成）
		1953	昭和28	・南柏駅開設
		1954	昭和29	・柏町，田中村，小金町，土村が合併「東葛市」となる
				・小金町の大部分が松戸へ合併
				・東葛市に富勢村の大部分を編入し柏市誕生(11月15日)
		1955	昭和30	・手賀村，風早村が合併し沼南村となる
				・国勢調査　柏市の人口45,020人、沼南村人口10,911人、合計市域人口55,931人
				・米軍柏通信所（キャンプ・トムリンソン）開設
		1957	昭和32	・国道6号（小金－青山間）で全線開通（12月）
		1964	昭和39	***・第18回オリンピック大会東京で開催***
				・沼南村が沼南町となる
				・柏市人口10万人突破（11月）
				・国勢調査　柏市の人口109,237人、沼南町人口15,262人、合計市域人口124,499人
		1970	昭和45	***・日本万国博大阪で開催***
				・国道16号（野田－千葉間）全線開通（4月）
				・柏市人口15万人突破
				・沼南町人口2万人突破
		1973	昭和48	・柏駅東口再開発事業完成 東口ダブルデッキができる（10月）
		1975	昭和50	***・海洋博，沖縄で開催***
				・柏市の人口20万人を突破（5月）

時代区分		西暦	年号	主なできごと
現代	昭和			・国勢調査　柏市人口203,065人、沼南町人口22,150人、合計柏市域人口225,215人
		1979	昭和54	・米軍柏通信所（柏の葉）全面返還（8月）
				・沼南町人口3万人突破
		1982	昭和57	・柏市の人口25万人を突破
		1985	昭和60	***・科学万博，筑波学園都市で開催***
				・常磐高速道路一部開通（柏～三郷）
				・国勢調査　柏市人口273,128人、沼南町人口38,027人、合計柏市域人口311,155人
				・運輸政策審議会において常磐新線の整備を答申（7月）
		1987	昭和62	・柏市立十余二小学校開校
		1988	昭和63	・沼南町人口4万人突破
	平成	1989	平成元	・柏市の人口30万人を突破（5月）
				・国勢調査　柏市人口317,750人、沼南町人口45,130人、合計柏市域人口362,880人
				・税関研修所移転
		1991	平成3	・柏の葉公園一部開園
				・千葉大学園芸学部附属農場設立
				・1都3県は宅地・鉄道一体化法に基づく基本計画を策定し、運輸・建設・自治大臣が承認
		1992	平成4	・国立がんセンター東病院開院
		1994	平成6	・常磐新線起工式（秋葉原～新浅草間）（10月）
		1996	平成8	・緑園都市構想策定（3月）
				・さわやかちば県民プラザ開館
		1999	平成11	・科学警察研究所移転
				・東京大学の物性研究所・宇宙線研究所が柏の葉キャンパスへ移転
		2001	平成13	・常磐新線新名称を「つくばエクスプレス」に決定（2月）
				・柏ゴルフ倶楽部閉鎖（9月）
		2003	平成15	・千葉大学環境健康都市園芸フィールド科学教育センター設立
		2004	平成16	・柏市制50周年記念式典を挙行
				・つくばエクスプレス開業「柏の葉キャンパス駅」「柏たなか駅」誕生（8月）
				・国勢調査　柏市人口380,963人
		2007	平成17	・県立柏の葉高校開校
		2008	平成20	・中核市となる(4/1)
				・柏の葉国際キャンパスタウン構想策定（3月）
		2011	平成23	・柏の葉キャンパスを中心とし、内閣府より「総合特区」及び「環境未来都市」の対象地域として指定（12月）
		2012	平成24	・柏の葉小学校開校（4月）
		2014	平成26	・柏市制60周年
		2018	平成30	・柏市立柏の葉中学校開校（4月）

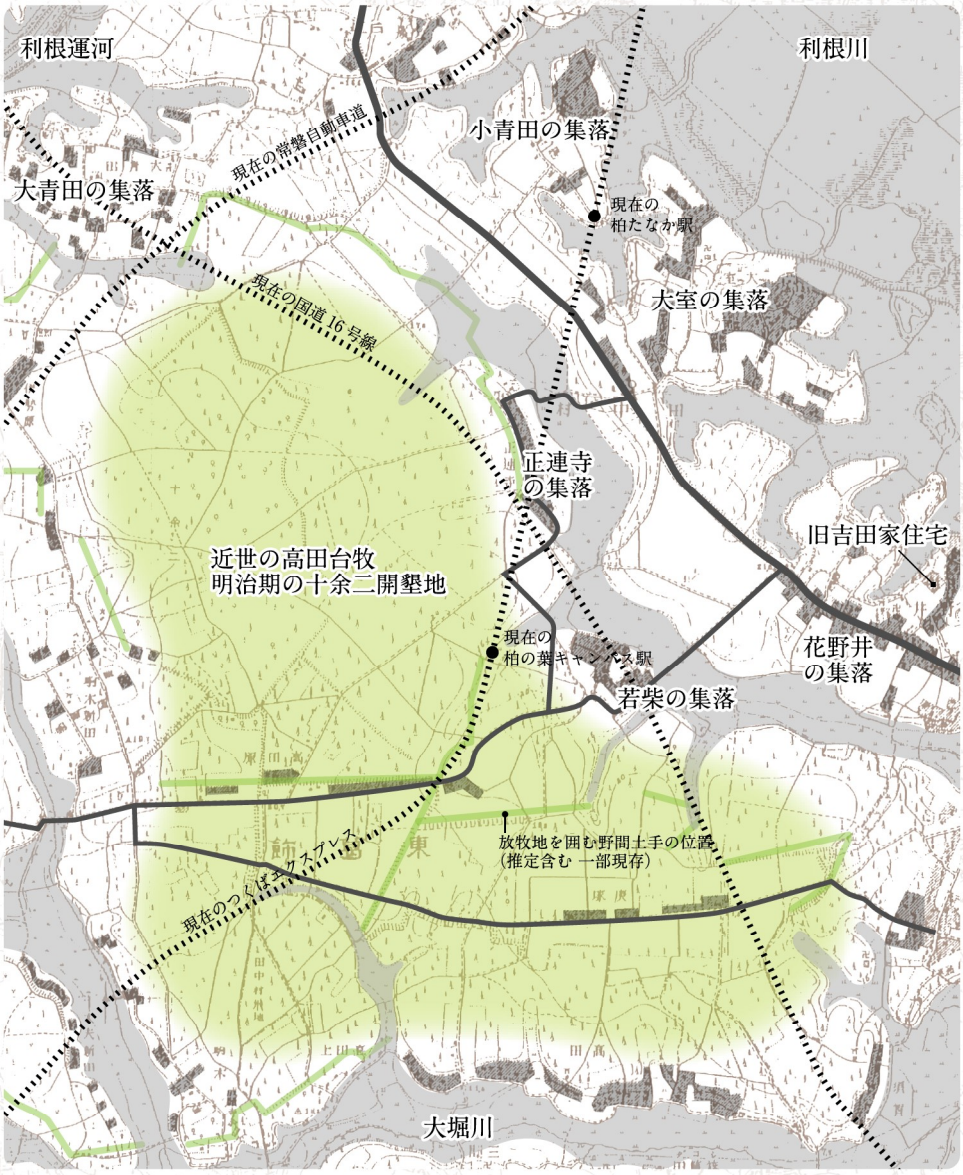
（引用文献）
柏市教育委員会. 2018. 郷土かしわ地理・歴史・公民編 平成30年度版. P99-114
柏市市史編さん委員会. 2007.歴史ガイドかしわ.　P238-241.　柏市教育委員会
柏市教育委員会.　2014.　柏市郷土資料室掲示 柏市略年表
（公財）千葉県教育振興財団.　2017.　常磐道の遺跡展図録
柏市議会事務局. 2018. 市政概要 平成30年版. P275-277

（参考文献）
柏市史編さん委員会.　1980.　柏市史年表.　柏市役所
柏市役所（最終更新日2018.1.11）柏市の歴史　http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/020300/p000077.html　2018.8.27参照
柏市役所（最終更新日2017.3.8）旧昭南町の概要　http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/020100/p000138.html 2018.8.27参照
柏市役所（最終更新日2018.7.2）柏市統計書　平成29年版　　柏市の沿革 http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/020800/p008433.html　2018.8.27参照
柏市役所（最終更新日2018.5.23）柏市都市計画マスタープラン平成30年4月　p7　都市の変遷 www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/140300/p045777.htm　2018.8.27参照

「私たちの柏の歴史～牧から街へ～」制作プロジェクトチームメンバー

統括・代表	野田勝二（千葉大学環境健康フィールド科学センター）
	大鷹秀生
	笠羽英男
	河合都志子
	今野尚子
	齋藤優子
	下重野乃香
	常盤　猛
	中山千花
	浜口勝美
	校條邦夫
	山口政子
制作協力	高野博夫（柏市生涯学習部文化課）
表紙・裏表紙デザイン	大野将司
印刷協力	柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）

発行者：千葉大学柏の葉カレッジ・リンクプログラム
野田勝二
発行日：2021 年 6 月 30 日
千葉大学環境健康フィールド科学センター
〒277-0882
千葉県柏市柏の葉 6-2-1



昭和初期までの柏の葉地域（UDCK）

私たちの柏の歴史

― 牧から街へ ―

History of *Kashiwa*

千葉大学柏の葉カレッジリンク・プログラム